

令和7年度9月 秋卒業式 式辞

みなさま、ご卒業おめでとうございます。

本日は、6名に学士、1名に短期大学士、1名に修士、2名に博士の学位記を授与しました。今までの大学での研鑽の結果、学位を取得されたことを、お慶び申し上げます。

学位の取得とは、学士、短期大学士、修士あるいは博士の学位授与の方針、ディプロマポリシーの内容を達成したと教授会等で認められたということです。とくに博士の学位は博士論文の審査に合格したことを意味しますので、大きな意義を持っているとお考え下さい。

さて、この秋季学位記授与式を迎えると、秋卒業がなぜ9月末なのか、ということに思いが至ります。現在の日本の制度では、4月から9月を前期、10月から3月までを後期とした学年歴となっています。そのため、秋は10月入学、9月卒業となるわけです。

アメリカでは8月後半に入学、6月末に卒業で、7、8月が学期外となりますが、日本の場合、夏休みは前期の中となります。少し前のことですが、日本でも大学の秋入学をすすめる動きがありましたが、あわせて卒業時期も考えないと支障がでると思います。

その秋の卒業式ですが、多くの方が出席する3月の卒業式とは違い、ひとりひとりの顔を見ながら、ここにいる全員に学位記を手渡すことができ、私自身、大変うれしく思います。

また、皆さんは所属も年齢も異なり、この機会でなければ出会うことがなかったかもしれません。本日という日は、まさに貴重な節目の日で

あると言えるのではないのでしょうか。

この学位記授与式をひとつの区切りとして、それぞれが培った専門知識や経験を活かし、社会に貢献する人材として活躍されることを祈念し、式辞といたします。

改めまして、本日は卒業・修了、誠におめでとうございます。

令和7年9月30日 静岡県立大学 学長 今井康之